

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>



クリエイツかもがわ

CREATES KAMOGAWA

〒601-8382 京都市南区吉祥院石原上川原町21 <http://www.creates-k.co.jp>

TEL 075(661)5741 FAX 075(693)6605 送料240円(5000円以上無料)

赤ちゃんキューちゃん

宮本ジジ
シリーズ①／え

おじいちゃんの手帳

よしだよしえ
シリーズ②／え

一本の線をひくと

寺田智恵
シリーズ③／え

赤いスパゲツチ

寺田智恵
シリーズ④／え

じいちゃん、出発進行！
天野勢津子／え ⑤
一人では散歩ができないじいちゃん
ある日 ゴツン 頭がぶつかった
エッ？ エッ？ エッ？
ぼくはじいちゃんになっちゃった！



絵本とともに伝える認知症シリーズ
全5巻そろいました！

最新刊

藤川幸之助／さく

20×24・7cm・29頁 各1980円(税込)

●全5巻セット(ケース入り) 9900円(税込)

認知症の本人、家族、周囲の人の思いやつながりから認知症を学び、こどもの心を育てます。園や小学校、家庭で「認知症」が学べる総ルビ・解説付き。

「明」るい世の中になりますように

～コロナ禍でも工夫して、楽しく、明るく!～

社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会の特養「いこいの村・梅の木寮」では、職員1人ひとりが新年度に思いを馳せて一文字を考えます。それを、生活者(利用者)・職員みんなで投票し、今年度の一文字を決めています。2021年度はいこいの村のみならず、世の中が明るくなるようにとの思いから「明」が選ばれました。

題字は毎年、邦子さんに書いていただいています。邦子さんは聴覚障害と言語機能障害を併せもち、就学も就労も経験なく家族のなかでずっと過ごして来られました。手話もご存じなく、身振りや指差しで思いを表されることもありません。書道も見よう見まねで、見本と同じ形になるように慎重に筆を運びます。何を思いながら文字を書きあげられたのだろうか、毎回想像もふくらむ味のある一文字を完成されます。

明





動画でつながる 動画で伝えあう

聴覚障害がある方々が思いを伝えるためには、手話や身振りに加えて表情の動きも欠かせません。

本当は、会って、そばで相手の表情を見ながら話がしたい、伝えあいたいけれど、コロナ禍でそれができない……ならば、動画を使ってつながろう！ズームやスカイプを使って、全身で表現して、見せたいものを持ち寄って、つながりたい方々に思いを伝える機会が増えています。「会って」「伝えあえる」ことがよるこびや安心にもつながっています。



レッツエンジョイ村フェス T・D・I!!



コロナ禍で、例年おこなわれる「いこいの村まつり」も中止に。それでもなにかできないかと、利用者代表と職員と一緒に会議を重ね、いこいの村の栗の木寮、梅の木寮、グループホームとくらの家をズームでつないだ初めてのイベントが実現しました。共同作品「手形の虹」をメイン会場において、それぞれの生活の場から思いを語る弁論大会、ゲームやクイズ、福引大会、すべて大盛況でした。

「TDI」は「楽しい・大好き・いこいの村」の略称です。今年は地域の方々とも画面で一緒に楽しめるイベントに向けて、相談がはじまっています。





コミュニケーション保障をしながら「自治」を支える

梅の木寮には聴覚障害者と地元の高齢者が一緒にとりくむ、入所者自治会「年輪の会」があります。健聴、難聴、盲ろう、聴覚障害、知的障害、盲、いろんなコミュニケーション上の支援が必要な方々が、思いや意見をやり取りして、楽しい暮らしづくりにとりまかれています。みなさんが一同に介するときには、手話通訳、読み取り通訳、要約筆記、ノートテイク、触手話、視覚材料、音声ガイドなど、たくさんの手段を用いたコミュニケーションができることで、入所しているみなさんを主人公にした生活が成り立ちます。そのためには技術をもつマンパワーが必要不可欠です。コミュニケーション保障への理解と支援の輪がますます広がっていくことも期待したいです。（文・梅の木寮ケアマネジャー 四方美実）



●特集● 一人ひとりが望む老いのかたち

- 元気でいられないひとに思いを馳せられる社会に 小川 栄二 11
 支えてくれるから、向き合い、乗り越えられる
 脇田 正雄・山本 秀二 15
- 元気でいたい、元気でいられない、元気でいてほしい
 速水 敏子・速水 明子 18
- 介護の仕事が在宅介護の支えになる 小出 琢磨・西田依里子 22
 健康で文化的な生活とは何か 河合 克義 28
 高齢者のくらしの実態と貧困 高倉 弘士 34

●トピックス●

【PHOTO】ズームイン！

- 大阪民主医療機関連合会 40
 第26回社会福祉研究交流集会のご案内 42

●連載●

WORK WORK——わくワク——

よく働き、よく遊ぶ

就労継続支援事業所ないすらいふ 46

検証！ 介護保険20年

最終回 介護保険の総括と介護保障の課題 伊藤 周平 48

かさねあい、はぐくみあう保育実践

「一人ひとりを大切にする」保育の魅力をあらためて感じて

大塚亜侑美 54

JOB&ACTION 全国福祉保育労働組合（4） 58

コロナ禍での特例貸付の矛盾と葛藤を次へ活かすために

私の履歴書 社会福祉経営全国会議（4）

子どもたちから高齢者まで、バランスよく暮らせる

コミュニティの復活を 小林 忍 60

阿修羅がゆく わたしが好きな釜ヶ崎（24） 水野阿修羅 62

相談室の窓から

児童養護施設での高校中退が多い背景 青木 道忠 64

育つ風景 わが子であっても別の人、と知る瞬間 清水 玲子 66

ひととしてあたりまえに生きたい

「なかまの里をつくる会」会長として（6） 清田 廣 68

映画案内 『幸せの答え合わせ』 吉村 英夫 70

現代の貧困を訪ねて 生田 武志 72

夜まわりで出会った人たちの死

似らすとレーしょん道場 似顔絵まんがアート

朝ドラじゃ！ ラッキー植松 74

ホームレスから日本をみれば ありむら潜 76

花咲け！ 男やもめ 川口モトコ 77

●表紙の絵●
神門やす子

大阪弁考

中央社会保障推進協議会事務局次長 是枝 一成

少し自己紹介をさせていただきます。私は長年、大阪で民医連の仕事・活動をしつつ、ときには大阪市対策連絡会議やコミュニケーションバスである「赤バス廃止反対」の運動にも関わったりしてきました。その後、東京にある全日本民医連事務局に単身赴任して丸七年が経過、現在は中央社保協事務局での活動が主な任務です。

なかなか大阪弁が抜けないというか、標準語になじめないというか、東京でも大阪弁丸だしでしゃべっています。大阪弁のなかでも、私の言葉は「河内弁^{かわちべん}」です。先日終了したNHK朝ドラ「おちよやん」の竹井千代のモデルとなった俳優・浪花千栄子^{ななわちえこ}は、私の出身地の大阪府富田林市の旧大伴村^{おおとむら}という地域の出身、とのことでした。私も欠かさず観ていましたが、周りがすべて標準語または標準語らしき東京生活のなかで、すべてが大阪弁・関西弁のドラマは私にとっては癒しの一五分間でした。

大阪弁は、全国でどこまで通用するか。学習会の講師をしながら、試してみました（とどうか大阪弁でしかできない）。そうすると意外や意外、全国どこでも通じることがわかりました。漫才・落語などテレビやラジオを通じて「大阪弁を聞くことは多いよ」との反応で、違和感はないそうです（社交辞令かもしれませんが……）。

高齢者のみなさんの集会が福島県であったとき「ピンチヒッター」でお話しすることになり、大阪弁では日常的に使う「なんでやねん！」を報告のスライドに入れ込んでみました。二〇〇名くらいの参加者の分科会で、政府の社会保障政策の問題点をいくつも指摘しながら、「さあ、みなさんご一緒に！」と呼びかけると「なんでやねん！」と何



これえだ かずなり

現在、全日本民医連事務局次長、中央社保協事務局次長、本誌全国編集委員。

静岡大学を卒業後、1985年耳原総合病院就職以来、地域医療や介護等改善運動にとりくみ、現在は東京で活動中。関西勤労協の中にある「戦前の出版物を保存する会」の活動にも参加。

度も全員で唱和してくださいました。学習会のあと、「こんな楽しい学習会がいいよね」と何人かから声をかけていただきました。「やっぱり、大阪弁の力はすごいやんけー！（すごいのだよね）」というのが私の確信になり、一年ほど高知や静岡等々で「なんでやねん」の「普及」（？）に努めました。もし大阪弁が標準語だったら、国会などでも「PCR検査の実施数がこんなに少ないのは、なんでやねん」とか「菅さん、はっきりもの言うてや」となり「ほな、そうさせてもらいましょか」となるのでは……。ほんまかいなー！ ですな。

あちらこちらでの感想で共通するのは、大阪弁には独特の親しみやすさがあるとともに、「大阪」と言えば「笑いの文化」というのが定着していて、聞く側にとって言葉そのもののなかにそのような「期待感」が潜んでいるのを感じます。そう考えると、無理に標準語を使わなくてもいいのかも、と自分を正当化してみたくります。

もう一〇数年前でしようか、大阪府の北摂地域の年金者組合でお話をさせていたいただいたことでした。「政府の社会保障改悪の暗い話を、こんなに笑ろて聞いてええんやろうか。そやけど、がんばろうと思った」と感想がありました。笑いの力は、たたかう力にもなるのかもしれない。全国津々浦々で、大阪弁で学ぶがある、もしかして、たたかう勇気が倍增する？ のかも。「学習漫談」なんてことがあったりすると、怒りとともに「笑い、学び、たたかう」がつながるとええなー、と東京で妄想中です。

一人ひとりのがのぞむ、老いのかたち

望ましい高齢期のあり方としてよく耳にする「健康長寿」や「ピンピンコロリ」。もちろん、できるだけ元気に健康でいることは大切なことで、そのために適度な運動や食生活等に気を使うことはいいことです。ですが、元気であることがいいことだということが強調されればされるほど、元気でいる努力をしない人はダメな人であり、元気でなければ生きていく意味がないかのような圧力を、社会全体でかけてしまっていないでしょうか。

公益財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団がおこなっている「ホスピス・緩和ケアに関する意識調査二〇一八年」（回答者一〇〇〇名）では、「自身の理想の死に方」について「ぼっくり死（ある日、心臓病などで突然死ぬ）」が七七・七%、「ゆっくり死（寝込んでもいいので病气などで徐々に弱って死ぬ）」が二二・三%となっています。「ぼっくり死」を望む理由としては、「苦しみたくないから」（六七・八%）、「家族に迷惑をかけたくないから」（六一・一%）が六割以上を占めています。「寝たきりなら生きていても仕方ないから」も四三・六%におよびます。

人はだれしも歳をとります。若いときのように身体も動かなくなり、さまざまな病气もしやすくなります。ですが、生活に人の手助けが必要になったり、病気になることが、イコール不幸なことでしょうか。もちろん、だれしも痛い思いや苦しい思いをしたいわけではありませんが、そのとき、その立場になってみるとわからない気持ちやできない経験があります。だれかの支えがないと生活が成り立たないからこそ、人とのつながりがより大切で濃密なものとなり、だからこそ悩み傷つくこ

ともあれば、ともに共感し合えることで楽しみやうれしさも倍増します。介護する側にとってもされる側にとっても、本来そうした経験や感情のゆたかさは、人生でかけがいのないものになるはずですが、そのような「ゆたかな老い」を社会的に支えるしくみが、介護保険制度の本来の目的であったはずですが、今や制度の信頼性は失われつつあります。年間約一〇万人の人が家族等の介護を理由に離職し、家庭内での高齢者虐待もあとを絶ちません。高齢期の生活が、経済的にも精神的にも家族の犠牲のうで成り立たざるを得ない日本の現状が、前述の、六割を超える人たちが家族に迷惑をかけたくないからぼつくり死にたいと考えている、という調査結果にあらわれているのではないのでしょうか。

今号の特集では、ケアハウスに入所し専門職のケアや支えを得ながら笑顔で生活されているご夫婦、在宅介護をしながら介護現場で働く職員さん、さまざま葛藤や不安のなかでも互いを思いやりながら日々を大切にされている親子にお話をうかがいました。みなさん、日々のさまざま不安や心配ごことを抱えながらも、家族や職場の仲間、専門職に支えられながら、それぞれにとっての楽しく、ゆたかな日々を模索し、過ごされていました。

インタビューにご協力いただいた、父親を在宅介護で看取った小出さんが、「介護をとおして、親のことも、自分のこともよくわかった」と話してくださいましたことがとても印象にのこっています。それが介護のとてもステキな魅力だと思いますが、そう思えるためには、お互いが介護で追い詰められない「余裕」が不可欠です。高齢期は、失うものばかりではありません。老いのなかで支え、支えられ、重ねられていく貴重な日々があるはず。一人ひとりが望む老いを大切にできる社会でありたいと、あらためて感じました。